

でも、発想の転換を計ることによってそれが可能となることを、主として著者らの検討結果を例にとり説明させて頂いた。将来、この種の技術により新しい複合新素材の創製が可能になればと考えている。本稿が表面改質、材料開発分野でのなんらかのヒントを与えることができれば幸いである。

参 考 文 献

- 1) 中田, 松田: 溶接学会誌, 56(1987), 333-337.
- 2) 中田, 松田: 溶接学会誌, 57(1988), 224-229.
- 3) 中田: 溶接技術, 35 (1987), 107-118.
- 4) F. Matsuda, K. Nakata et al: Trans. of JWRI, 12 (1983), 97-104. (大阪大学溶接工学研究所英文報告)
- 5) F. Matsuda, K. Nakata et al: Trans. of JWRI, 13 (1984), 67-75.
- 6) F. Matsuda, K. Nakata et al: Precious Metals 1984, International Precious Metals Institute, 131-145.
- 7) F. Matsuda, K. Nakata et al: Trans. of JWRI, 14 (1985), 55-61.
- 8) 松田, 中田ら: 溶接学会論文集, 6 (1988), 436-441.
- 9) 山中: イオン窒化法, 日刊工業新聞社, (1976).
- 10) 松田, 中田ら: 溶接学会全国大会講演概要, 40 (1987), 202-203.
- 11) 松田, 中田ら: 同上, 42(1988), 160-161.
- 12) 梅原: 日本金属学会会報, 27(1988)10, 766-774.
- 13) 松田, 中田: 溶接学会全国大会講演概要, 44 (1989), 174-177.
- 14) 太刀川ら: 金属表面技術協会講演概要, 73(1986), 150.
- 15) 松田, 中田ら: 溶接学会全国大会講演概要, 44 (1989), 170-173.